

2025年度以降の検討課題について

2025年5月19日
電力広域的運営推進機関



- 運用容量検討会にて検討する運用容量算出における課題については、毎年5月の運用容量検討会にて設定している。
- 今回、2025年5月の運用容量算出における課題の設定に向けて、2024年度に実施した運用容量算出における課題の検討状況を踏まえて、2025年度以降の検討課題を整理した。

■ 2025年度以降の公表課題の検討に対して、目的・内容・検討状況等を下表のとおり、整理した。

		課題名	目的	内容	幹事会社 (協力会社)
1	継続	熱容量の適用期間細分化	再エネ出力制限量の低減、電力取引の活性化等を図ること。	全ての連系線（設備容量が制約となる直流設備除く）を対象として、熱容量の適用期間を現状よりも更に細分化することの可否について検討する。	四国、電発 (各社)
2	継続	広域系統整備計画による地域間連系線・連系設備増強に向けた運用容量の整理	広域系統整備計画により増強される予定の地域間連系線・連系設備の運用容量を整理する。	広域系統整備計画により増強される北海道本州間連系設備・東北東京間連系線・東京中部間連系線・中地域交流ループについて、運用容量の検討条件や算出方法について検討・整理する。	北海道、東北、 東京、中部、 北陸、関西
3	継続	調整力の広域調達に伴うフリンジの見直しについて	2024年度から一次調整力が需給調整市場により調達開始となる中、2022年度 第1回運用容量検討会にて運用容量への影響や対応策が整理されたことから、実績を確認し、必要に応じてフリンジの設定方法を見直す。	一次調整力の約定量や連系線潮流のデータを蓄積し、調整力調達量とフリンジ（連系線指令値と実績の差）の関係性を確認する。	東京、中部、 広域 (各社)
4	継続	作業時の中国九州間連系線（中国向）の運用容量への揚水織込みについて	BGとTSOの揚水計画を確認し、翌々日計画断面で運用容量へのポンプ量織込み、スポット市場での活用する。	2024年度の運用では長周期で組み合わせた蓋然性のあるポンプ量を織込むことと整理した。 BGポンプ計画と実績を確認し、翌々日断面で運用容量拡大によるスポット利用量拡大について運用方法を検討する。	中西6社、広域